



# 市長退任の ごあいさつ

## 世界都市・サッポロの 一層の躍進を願って

私は、五月一日をもちまして、三期十二年にわたる任期を終え、札幌市長を退任いたします。

顧みますと、昭和二十八年に一職員として市に奉職して以来、約五十年間にわたり、札幌のまちづくりに力を注いでまいりました。私が生まれ、育ったふるさと札幌のまちづくりに、このように長く携わることができましたのは、この上ない幸せであり誇りに思っております。

私の在任していた期間は、二十世紀から二十一世紀にかけての、社会全体が大きな転換期を迎える時代に当たり、百八十万都市のかじ取りには非常に難しいものがございました。そうした中、市民の皆さんのご厚情、ご高配により、数々の荒波を乗り越え、市長の重責を全うすることができました。

とりわけ、平成三年に市長となつてからは、まちづくりの根本を「環境と文化」に据え、市民一人ひとりが生き生きと快適に暮らすことのできる都市の実現に、全力をささげてまいりました。この間、札幌コンサートホールKitaraや札幌ドームHIROBAのオープン、そして昨年のFIFAワールドカップの開催などを経験し、札幌が、わが国における北の理想都市として大きく飛躍を遂げたものと思います。

しかしながら、昨今のわが国は、景気低迷が長引き、札幌の経済も深刻な様相を呈しております。国や本市におきまして、さまざまな施策を展開しているにもかかわらず、いまだその状況から脱してはおりません。また、こうした経済情勢を反映して、本市の財政もかつてないほど厳しい状況となっております。さらに、少子高齢化や環境保全、今後本格化する地方分権など、数々の難しい問題にも直面しております。

こうした多くの困難に立ち向かうべく、札幌市では「協働型社会の実現」に向けた新たな取り組みがスタートしたところであります。市民・企業・行政が、強い信頼関係の下、互いに手を携え、支え合いながらまちづくりを進めていくことで、さまざまな課題を解決し、必ずや、札幌の明るい未来を切り開いていくものと確信しております。

今後とも、市民の皆さんには、札幌が魅力と活力に満ちた世界都市として一層躍進するために、さまざまなお力添えを賜りますよう、心からお願いを申し上げます。退任のごあいさつといたします。

札幌市長 桂 信雄